

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	文化財の保存と活用	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-03-02		氏名	末長章彦
			電話	64-1841	
			このシート作成に要した時間	2.0 時間	

この施策の アピール ポイント	本市には、岡山を代表する焼物「備前焼」や近世の教育資産「閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に保存するとともに広く活用していく。
-----------------------	--

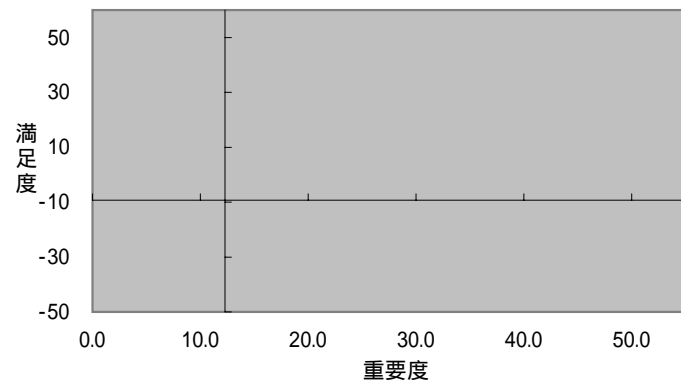
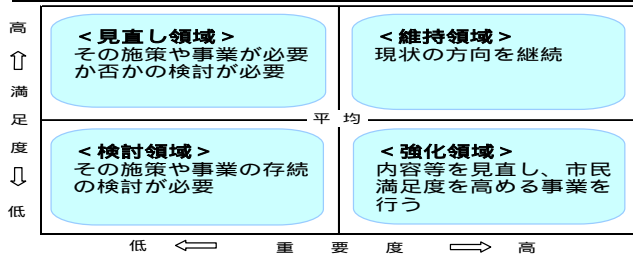
この施策の 平成23年度の 施政方針	文化財を保護・保存し、史跡等の公開や活用が図れるよう平成24年度を目的に歴史文化構想を策定し、個性豊かな地域文化の創造と発展に努める。特に、埋蔵文化財管理センターを設置し、地域で育まれた文化財の調査研究や適切な保存・活用を図る。「備前陶器窯跡」については、年次的に公有地化し恒久的に保存するとともに、備前焼に関するシンポジウムを開催する。また、閑谷学校世界遺産登録推進では、登録検討専門委員の指導を仰ぎ提案書を再提出したい。「閑谷学校世界遺産登録推進委員会」活動を充実させ、「閑谷学校」の名前が県内外へ広く浸透させる。
--------------------------	---

< 備前市総合計画の内容から記載する >

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化とひとが輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	歴史と文化の輝くまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域文化への理解をはかる。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市に存する指定文化財等の保護・保存を図り、郷土を正しく理解する資料として活用するため、調査研究を進めなければならない。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保護・保存・活用 開発や腐朽・被災から守るためのパトロール実施 文化財の調査研究 備前焼フォーラム等による情報発信</li> <li>旧閑谷学校世界遺産登録の推進 旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会による周知活動</li> </ul>	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H21	H22	H23	H24
重要度(%)				
満足度(%)				



調査結果に対するコメント、市民の反応等	旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員会では、閑谷学校には近世の教育要素の全てが内包されており、正に「学びの原郷」と呼ぶにふさわしいと結論付けられた。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H21	H22	H23			H24	H28
成果指標 世界遺産シンポジウム参加者数	目標	人	300	200	200	閑谷学校を理解するシンポジウムへの参加者数	H24	200
	実績	人	240	160	194		H28	
	達成率	%	80.0	80.0	97.0		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標 指定文化財等対応件数	目標	件	200	200	200	地域内文化財や文化遺産の調査・管理対応件数	H24	300
	実績	件	137	145	315		H28	300
	達成率	%	68.5	72.5	157.5		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標	目標						H24	
	実績						H28	
	達成率	%					-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標	目標						H24	
	実績						H28	
	達成率	%					-	-
	ベンチマーク						-	-

目標達成に必要な新規事業(裏面 施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3	閑谷学校の価値については、多くの市民が日常的に触れていることから、あまり高いと感じていない。しかし、本質的な価値に関するフォーラムは高い人気となっている。	
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3	文化財の保存を図る上で調査は不可欠である。備前陶器窯跡南大窯跡のように調査に一応の目的が果たしたところから、活用を検討しなければならない。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	本市は古くから焼物を産していた。そのため、埋蔵文化財包蔵地として知られている箇所が多数あり、開発行為等の確認件数が多い。地域の歴史研究はこの一面を考えても、長期的、継続的に実施していく必要がある。	
進行年度(H24年度)の取組内容 (課題解決状況)		旧閑谷学校が世界遺産暫定一覧表に登録されるよう、文化庁に報告をした。その報告の趣旨、閑谷学校は江戸時代の様々な教育を、この施設だけで説明し得る「学びの原郷」であることを多くの市民に理解してもらい取り組みを実施している。	
翌年度(H25年度)の取組目標		備前焼の歴史については小規模発掘やフォーラム開催により研究は進んでいるが、多くの人が史跡に足を運ぶという取り組みはしていない。備前陶器窯跡整備委員会の提言を受け、南大窯跡近接地にガイダンスに資する施設を検討したい。	
二次評価者コメント		本市の文化財は多くの歴史ファンを動員できる価値がある。調査研究の成果を公表し、公開可能な文化財は活用できるよう事業の展開を検討してください。	基本施策への貢献度 <b>3 中立</b>
役職 教育次長 氏名 岩崎 透			

